

受験番号					
氏名					

国語国文学科
「小論文」

課題

次の文章は、佐伯順子『女装と男装』の文化史の一節である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本で双方向の性別越境を描く代表的な物語の一つは、『とりかへばや物語』である。物語の成立は十二世紀後半ごろ、舞台はさらに十世紀初頭にさかのぼるとされているが、当時はもちろん、ジェンダーや性自認という用語は存在しなかった。また、近代の研究では、主人公たちの性別越境を「倒錯」という用語で説明する傾向が見られたが¹、今日のジェンダー論の観点から見ると、「倒錯」の語は十分ではなく、実質的にトランスジェンダーへの重要な問いかけをはらむ作品である。

物語の主人公は権大納言兼大将の娘と息子。二人は母親が異なるが、「おほかたは、たゞ同じ物と見ゆる御かたちの²」と、同一人物かと思われるほどよく似た容貌であった。ただ、「若君は、あてにかほりけだかく、なまめかしき方添ひて見え給³。姫君は、はなぐとほこりに、見ても飽く世なく、あたりにこぼれちる愛敬⁴などぞ」と、若君はAで、姫君はB。「あさましう物恥⁵ちをのみし給ひて⁶やうく御文習⁷はしさるべき事どもなど教へきこえ給へど、おほしもかけず」と、若君は大変な人見知りで、当時の貴族男性に必要とされる漢籍の学習などには無関心な一方、「たゞいと恥づかしとのみおほして、御丁⁸のうちにのみうづもれ入りつゝ、絵かき、雛遊び⁹・貝おほひなどし給へ¹⁰」と、人に顔を見せるのを恥ずかしがって、屋内でお絵描き、人形遊び、貝覆いなど、女の子向けの遊びばかりしている。一方の姫君は、「今よりいとさがなくて、をさく内にも物し給はず、外にのみつとおはして、若き男ども重¹¹べなどと、鞠・小弓などを使得て遊ぶのが好き。その闊達さから、「この御腹¹²のをば姫君と聞こえしは、ひが事なりけり」(こちらがお姫様かと思つたらD)と噂される姫君は、男の子として周囲からかわいがられるので、親もそのままにしていた。しかし、親の内心は穏やかでなく、「御心のうちにぞ、いとあさましく、返¹³、とりかへばやとおほされける」と、「娘と息子をE」と悩むのであった。

内向的で人形遊びが好きな子供を「女の子」と見なし、外で活発に行動する子供を「男の子」と見なす人々。内向的・女性性、外向的・男性性という、近代にも見られる、女らしさ¹⁴・男らしさ¹⁵のジェンダーが、当時も通用していたことがよくわかる。子供たちの性格を見て、男女をEと願い、「いかなりし昔の罪」の報いかと涙を流す親の態度は、息子のsexとgenderのずれに悩む『ほくのバラ色の人生』に描かれる親のときどきや、現代の性同一性障害(GD)をめぐる家族の反応にも通じ合う。当時はGDという用語も概念も存在しないが、それに相当する感性はすでに古代日本にも存在したのである。

(中略)

若君¹⁶の苦悩は遠い過去のものではない。この作品が一九八〇年代に少女小説(氷室冴子『ざ・ちえんじー 新釈とりかへばや物語』)となり、さらに一九九〇年代に漫画化(山内直美『ざ・ちえんじー』)もされている事実は、この物語が、女性の社会進出が世界比較で「五四位」と言われる日本のジェンダー状況(『読売新聞』、二〇〇八年六月十三日付夕刊)のなかで、活発な行動を望む二十一世紀の日本の女性読者たちの共感をよぶからと思われる。

国語国文学科
「小論文」

受験番号					
氏名					

- 問1 空欄A・Bに最もふさわしい語を選択肢から選び、記号で答えなさい。
ア 醜悪 イ 高潔 ウ 活発 エ 無知 オ 知的 カ 清楚 キ 優美
- 問2 傍線C「当時の貴族男性に必要とされる漢籍の学習」とあるが、当時の男女の教養について説明しなさい。
- 問3 空欄Dには「ひが事なりけり」の訳が入る。空欄Dに入る言葉を書きなさい。
- 問4 空欄Eには「とりかへばや」の訳が入る。空欄Eに入る言葉を書きなさい。
- 問5 この文章を読んで、あなたが考えたことを論述しなさい。

【注意】 解答は、すべて解答用紙に記入してください。解答は、「問1」「問2」「問3」と問題の番号を記入してから、続けて書いてください。解答用紙は、裏面も使用できます。

国語国文学科
「小論文」

受験番号					
氏名					

採点欄

裏面使用可

ここから記入すること ←



ここから左には記入しないこと